

サンクチュアリセンターニュースvol.82

3月25日(土)に伊豆沼漁協、伊豆沼・新田北部両土地改良区および財団による堤防の一斉清掃(野火)を行いました。天候にも恵まれ、二工区・三工区とも広範囲に焼却することができました。雑木・雑草が増え、ゴミの不法投棄が多かった堤防周辺も今回の野火により、ヨシ群落の維持が図られ、沼の景観が改善されることが期待されます。

平成28年度来館者
24年ぶり4万人を達成!

平成29年4月号

第58回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーンを実施しました

3月20日(月)に、「第58回伊豆沼・内沼クリーンキャンペーン」が開催されました。周辺地域の方々や地元企業など多くの方々に協力いただきました。今回は3会場で参加者975人、ゴミの量850kgでした。タイヤや消火器などの粗大ゴミも捨てられていました。



ゴミ拾いのようす



回収されたゴミ

第64回生態学会大会に研究発表してきました

平成29年3月14日～18日、早稲田大学にて開催された第64回生態学会大会にて研究発表してきました。多くの研究者が集まって、自由な空気の中、活発な議論が行われました。以下に発表内容の概要を紹介します。

ポスター発表

・伊豆沼・内沼湖岸に発達した植物相の特徴と立地環境の対応関係、並びに保全上の課題について(速水 裕樹・藤本 泰文・嶋田 哲郎・横山 潤)

伊豆沼・内沼に残る湿生、水生植物群落の保全のため、群落ごとの生活史戦略と立地環境について明らかにし、保全対策の方向性について考えました。調査の結果、沼の植物群落の生活史戦略はストレス耐性型(水分)、攪乱依存型(草刈り)、競争戦略型(ストレスや草刈りの少ない立地)に分類され、多くの希少種が攪乱依存型でした。伊豆沼は広大なので、全域で保全対策を行うのは大変ですが、生活史戦略を目安に区分けを行い、草刈りなどの管理を行うことで、効率的に希少種を保全できると考えられました。



コクガン国際会議

マガンやヒシクイなどは伊豆沼・内沼でもおなじみのガンですが、南三陸沿岸など海で海藻を食べて越冬するガンもいます。体の黒いコクガンです。このガンは他のガンと比べて謎が多く、繁殖地さえわかっていません。財団では2011年から衛星追跡をはじめ、生態解明に取り組んできました。3月18～20日にアメリカ、ロシア、中国など各国のコクガンの研究者が集まる国際会議が函館で開催されました。これまでの知見を整理して、国際協力の中で東アジアでのコクガン研究のすすめ方が議論されました。衛星追跡をはじめとする財団の研究は高く評価され、今後の展開が大いに期待されています。



函館湾沿岸のコクガン。

南三陸沿岸にはほとんどない平磯が、ここでは彼らの主な採食場所となっています。

バス・バスターズ 今年5月21日(日)からスタート!



外来魚駆除活動バス・バスターズは、今年で14年目を迎えます。これまでの継続した駆除活動により、人工産卵床に産み付けられるオオクチバスの卵は年々減少してきました。おかげさまで、沼ではさまざまな魚やエビ類が増えてきました。引き続き駆除し、沼の魚介類を守っていく必要があります。今年の活動は、5月21日(日)から6月25日(日)までの毎週日曜日、全6回を予定しています。多くの方々のご参加をお待ちしています。

5月							6月							○:活動日
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
	1	2	3	4	5	6					1	2	3	
7	8	9	10	11	12	13	④	5	6	7	8	9	10	
14	15	16	17	18	19	20	⑪	12	13	14	15	16	17	
⑳	22	23	24	25	26	27	⑱	19	20	21	22	23	24	
㉘	29	30	31				㉘	26	27	28	29	30		

伊豆沼・内沼生き物図鑑

みなさんはニホンアカガエルというカエルをご存じでしょうか。4～5cmほどの赤茶色をしたカエルで、私たちの身近にすんでいる里山の生き物です。このカエルが活発に活動する季節が春です。春先、まだ冬の寒さを感じる中、ニホンアカガエルは夜の田んぼや水路の水たまりで一斉に産卵を始めます。産卵を終えた親ガエルは水辺や雑木林などで生活するため、目にする機会がめっきり減ってしまいます。一方、孵化したオタマジャクシは初夏にはカエルになって上陸します。ニホンアカガエルは私たちの身近にすむカエルですが、最近各地で減少しています。その原因の一つに、冬に田んぼの水を抜いてしまうことが挙げられます。春の早い時期に産卵するニホンアカガエルは、水が抜かれた田んぼでは産卵ができず、繁殖できなくなってしまうのです。冬場の水たまりは、メダカやタニシなどが冬を越す場所でもあるため、ほかの生き物にとっても重要な環境です。つまり、このカエルがみられるということは、生き物豊かな田んぼと雑木林がある里山であることを証明しているのです。伊豆沼周辺にもニホンアカガエルが生息しています。豊かな環境を残していくためにも、このカエルを見守っていききたいですね。



ニホンアカガエル 産んだ卵

<事務局>

〒989-5504宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
 (公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
 ホームページ:<http://izunuma.org/>
 Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217
 E-mail:izunuma@circus.ocn.ne.jp